

女川原発 再稼働問題

30km圏の屋内退避を前提にした 実効性のない避難計画は 根本から見直すべき!

三浦かずとし県議の一般質問 10/2



一般質問で取り上げたテーマ

1. 女川原発再稼働における避難計画の問題
2. コロナ感染をどう抑えるか
3. 石巻須江地区に計画中的「パーム油」発電について
4. 県高等技術専門学校1校集約案について
5. 水産加工業等の救済について

女川原発問題

住民の願いを代弁し

知事に気迫の質問

三浦一敏県議は、女川原発の避難計画の矛盾をただし、国の原子力安全委員会ヨウ素剤対策委員会で「一般の家庭は2時間で50%の外気が入り、3〜4時間で放射能の防護効果はなくなる」。また新潟県の避難検討委員会で「窓を閉めていても屋内外の空気が入れ替わり、1時間で外気の9割近くまで放射能濃度が上がる」との新聞報道を示し、屋内退避で被ばくが防げないのではないかと迫りました。

くを5〜25%程度に抑えることができると回答。

三浦県議は、この数値は本当に正しいのか疑問だ。原発事故から身を守るには屋内退避ではなく直ちに、より遠くに避難するほうが安全ではないかと問題提起。30km圏の住民は一度原発事故になれば福島の子の舞になる。なんでそこまで私たちは追い詰められなければならないのか、と厳しく指摘。

また三浦県議は県民世論と議会には大きなギャップがあると述べ、県民投票で判断すべきではないかと、知事に迫りました。

新型コロナウイルス感染症対策

N95マスクなどの衛生資材を県が安定的に確保・供給すべきとの質問に、県ではN95マスクは10万枚備蓄しており、医療機関に不足の時は直ちに配布する体制をとっていることを確認しました。

また、石巻圏と全県のPCR検査可能医療機関の質問に、石巻圏では30機関以上、全県では約300機関になっていると答弁しました。

パーム油発電所建設問題

石巻市須江地区に計画される巨大なパーム油発電所が、ディーゼルエンジン10基を24時間稼働し、油を1日500トン燃やし続ける発電所と強調。窒素酸化物の排出や悪臭・騒音、燃料運搬による交通障害などの問題を指摘し、県として許さない立場で全力を尽くすべき、と求めました。

環境生活部長は、環境審議会からも関係市からも生活環境悪化の意見が出ており、県としても重大な影響を懸念している、と答弁しました。

日本共産党
県議団ニュース
速報版

2020年10月 第43号

発行：日本共産党宮城県議会議員団
（控室）TEL 022(211)3523
FAX 022(268)6093
E-mail: info@jcpmk.jp